校異源氏物語・うつせみ

ねられたまはぬまゝには我はかく人ににくまれてもならはぬをこよひなむはしめてうしとよをおもひしりぬれははつかしくてなからふましうこそおもひなりぬれなとのたまへはなみたをさへこほしてふしたりいとらうたしとおほすてさくりのほそくちいさきほとかみのいとなかゝらさりしけはひのさまかよひたるもおもひなしにやあはれなりあなかちにかゝつらひたとりよらむも人わろかるへくまめやかにめさましとおほしあかしつゝれいのやうにものたまひまつはさす夜ふかういてたまへはこのこはいといとをしくさう　くしと思ふ女もなみ

　くならすかたはらいたしと思ふに御せうそこもたえてなしおほしこりにけると思にもやかてつれなくてやみ給なましかはうからましししゐていとをしき御ふるまひのたえさらむもうたてあるへしよきほとにかくてとちめてんとおもふものからたゝならすなかめかちなりきみは心つきなしとおほしなからかくてはえやむましう御こゝろにかゝり人わろくおもほしわひてこきみにいとつらうもうれたうもおほゆるにしゐておもひかへせと心にしもしたかはすくるしきをさりぬへきおりみてたいめむすへくたはかれとのたまひわたれはわつらはしけれとかゝるかたにてものたまひまつはすはうれしうおほえけりおさなき心地にいかならんおりとまちわたるにきのかみくにゝくたりなとして女とちのとやかなるゆふやみのみちたと　くしけなるまきれにわかくるまにてゐてたてまつるこのこもおさなきをいかならむとおほせとさのみもえおほしのとむましけれはさりけなきすかたにてかとなとさゝぬさきにといそきおはす人みぬかたよりひきいれておろしたてまつるわらはなれはとのゐ人なともことにみいれついせうせす心やすしひむかしのつまとにたてたてまつりてわれはみなみのすみのまよりかうしたゝきのゝしりていりぬこたちあらはなりといふなりなそかうあつきにこのかうしはおろされたるととへはひるよりにしの御かたのわたらせ給てこうたせたまふといふさてむかひゐたらむをみはやとおもひてやをらあゆみいてゝすたれのはさまにいり給ぬこのいりつるかうしはまたさゝねはひまみゆるによりてにしさまにみとをし給へはこのきはにたてたるひやう風はしのかたをしたゝまれたるにまきるへき几帳なともあつけれはにやうちかけていとよくみいれら

る火ちかふともしたりもやのなかはしらにそはめる人やわか心かくるとまつめ
とゝめたまへはこきあやのひとへかさねなめりなにゝかあらむうへにきてかし
らつきほそやかにちいさき人のものけなきすかたそしたるかほなとはさしむか
ひたらむ人なとにもわさとみゆましうもてなしたりてつきやせ　くにていたう
ひきかくしためりいまひとりはひむかしむきにてのこる所なくみゆしろきうす
物のひとへかさね二あひのこうちきたつものないかしろにきなしてくれなゐの
こしひきゆへるきはまてむねあらはにはうそくなるもてなしなりいとしろうお
かしけにつふ　くとこゑてそゝろかなる人の頭つきひたいつきものあさやかに
まみくちつきいとあひきやうつきはなやかなるかたちなりかみはいとふさやか
にてなかくはあらねとさかりはかたのほときよけにすへていとねちけたる所な
くおかしけなる人とみえたりむへこそおやのよになくは思らめとおかしくみ給
心ちそなをしつかなるけをそへはやとふとみゆるかとなきにはあるましこうち
はてゝけちさすわたりこゝろとけにみえてきは　くとさうとけはおくの人はい
としつかにのとめてまち給へやそこは持にこそあらめこのわたりのこうをこそ
なといへといてこのたひはまけにけりすみの所いて　くとおよひをかゝめてと
をはたみそよそなとかさふるさまいよのゆけたもたと　くしかるましうみゆす
こししなをくれたりたとしへなくゝちおほひてさやかにもみせねとめをしつけ
たまへれはをのつからそはめもみゆめすこしはれたる心ちしてはななともあさ
やかなるところなふねひれてにほはしきところもみえすいひたつれはわろきに
よれるかたちをいといたうもてつけてこのまされる人よりは心あらむとめとゝ
めつへきさましたりにきわゝしうあひきやうつきおかしけなるをいよ　くほこ
りかにうちとけてわらひなとそほるれはにほひおほくみえてさるかたにいとお
かしき人さまなりあはつけしとはおほしなからまめならぬ御こゝろはこれもえ
おほしはなつましかりけりみたまふかきりの人はうちとけたる世なくひきつく
ろひそはめたるうはへをのみこそみ給へかくうちとけたる人のありさまかいま
みなとはまたし給はさりつることなれはなに心もなうさやかなるはいとおしな
からひさしうみたまはまほしきにこきみいてくる心ちすれはやをらいて給ぬわ
たとのゝとくちによりゐたまへりいとかたしけなしとおもひてれいならぬ人侍
てえちかふもより侍らすさてこよひもやかへしてんとするいとあさましうから
うこそあへけれとのたまへはなとてかあなたにかへり侍りなはたはかり侍なん
ときこゆさもなひかしつへきけしきにこそはあらめわらはなれとものゝこゝろ
はへ人のけしきみつへくしつまれるをとおほすなりけり五うちはてつるにやあ

らむうちそよめく心ちしてひと　くあかるゝけはひなとす也わか君はいつくにおはしますならむこのみかうしはさしてんとてならすなりしつまりぬなりいりてさらはたはかれとの給このこもいもうとの御こゝろはたはむところなくまめたちたれはいひあはせむかたなくて人すくなゝらんおりにいれたてまつらんと思なりけりきのかみのいもうともこなたにあるか我にかいまみせさせよとのたまへといかてかさは侍らんかうしには几帳そへて侍ときこゆさかしされともおかしくおほせとみつとはしらせしいとおしとおほして夜ふくることの心もとなさをの給こたみはつまとをたゝきているみな人　くしつまりねにけりこのさうしくちにまろはねたらむかせふきとをせとてたゝみひろけてふすこたちひむかしのひさしにいとあまたねたるへしとはなちつるはらはへもそなたに入てふしぬれはとはかりそらねして火あかきかたにひやう風をひろけてかけほのかなるにやをら入たてまつるいかにそおこかましき事もこそとおほすにいとつゝましけれとみちひくまゝにもやの木丁のかたひらひきあけていとやをらいり給とすれとみなしつまれるよの御そのけはひやはらかなるしもいとしるかりけり女はさこそわすれ給をうれしきにおもひなせとあやしくゆめのやうなることをこゝろにはなるゝおりなきころにて心とけたるいたにねられすなむひるはなかめ夜はねさめかちなれは春ならぬこのめもいとなくなけかしきに五うちつる君こよひはこなたにといまめかしくうちかたらひてねにけりわかき人はなにこゝろなくいとようまとろみたるへしかゝるけはひのいとかうはしくうちにほふにかほをもたけたるにひとへうちかけたる几帳のすきまにくらけれとうちみしろきよるけはひいとしるしあさましくおほえてともかくも思わかれすやをらおきいてゝすゝしなるひとへをひとつきてすへりいてにけり君はいり給てたゝひとりふしたるをこゝろやすくおほすゆかのしもに二人はかりそふしたるきぬをゝしやりてより給へるにありしけはひよりはもの　くしくおほゆれとおもほしうもよらすかしいきたなきさまなとそあやしくかはりてやう　くみあらはし給てあさましくこゝろやましけれと人たかへとたとりてみえんもおこかましくあやしとおもふへしほいの人をたつねよらむもかはかりのかるゝこゝろあめれはかひなふおこにこそおもはめとおほすかのおかしかりつるほかけならはいかゝはせむにおほしなるもわろき御こゝろあさゝなめりかしやう　くめさめていとおほえすあさましきにあきれたるけしきにてなにのこゝろふかくいとおしきようゐもなし世中をまたおもひしらぬほとよりはされはみたるかたにてあえかにもおもひまとはすわれともしらせしとおほせといかにしてかゝることそとのちに思め

くらさむもわかためにはことにもあらねとあのつらき人のあなかちになをつゝむもさすかにいとをしけれはたひ　くの御かたゝかへにことつけ給しさまをいとかういひなし給ふたとらむ人は心えつへけれとまたいとわかき心地にさこそさしすきたるやうなれとえしも思わかすにくしとはなけれと御心とまるへきゆへもなき心ちしてなをかのうれたき人の心をいみしくおほすいつくにはいまきれてかたくなしとおもひゐたらむかくしうねき人はありかたきものをとおほすしもあやにくにまきれかたふおもひいてられ給この人のなま心なくわかやかなるけはひもあはれなれはさすかになさけ　くしくちきりをかせ給人しりたることとよりもかやうなるはあはれもそふ事となむ昔人もいひけるあひおもひたまへよつゝむことなきにしもあらねはみなから心にもえまかすましくなんありけるまたさるへき人　くもゆるされしかしとかねてむねいたくなん忘てまちたまへよなとなを　くしくかたらひ給人の思侍らんことのはつかしきになんえきこえさすましきとうらもなくいふなへて人にしらせはこそあらめこのちいさきうへ人につたへてきこえんけしきなくもてなし給へなといひをきてかのぬきすへしたるとみゆるうす衣をとりていて給ぬこ君ちかふふしたるをおこし給へはうしろめたうおもひつゝねけれはふとおとろきぬとをやをらをしあくるにおいたるこたちのこゑにてあれはたそとおとろ　くしくとふわつらはしくてまろそといらふ夜中にこはなそとありかせ給とさかしかりてとさまへくいとにくゝてあらすこゝもとへいつるそとて君ををしいてたてまつるにあかつきちかき月くまなくさしいてゝふと人のかけみえけれはまたおはするはたそとゝふ民部のおもとなめりけしうはあらぬおもとのたけたちかなといふたけたかき人のつねにわらはるゝをいふ也けりおい人これをつらねてありきけるとおもひていまたゝ今たちならひ給ひなむといふ　くわれもこのとよりいててくわひしけれはえはたをしかへさてわたとのゝくちにかひそひてかくれたち給へれはこのおもとさしよりておもとはこよひはうへにやさふらひ給つるおとゝひよりはらをやみていとわりなけれはしもに侍つるを人すくななりとてめしゝかはよへまうのほりしかとなをえたふましくなむとうれふいらへもきかてあなはら　くいまきこえんとてすきぬるにからふしていてたまふなをかゝるありきはかろ　くしくあやしかりけりといよ　くおほしこりぬへしこ君御くるまのしりにて二条院におはしましぬありさまの給ひておさなかりけりとあはめ給てかの人のこゝろをつまはしきをしつゝうらみ給いとをしうてものもえきこえすいとふかうにくみ給へかめれは身もうくおもひはてぬなとかよそにてもなつかしきいらへはかりはし給ま

しき伊与の介におとりけるみこそなと心つきなしとおもひてのたまふありつる
こうちきをさすかに御そのしたにひきいれておほとのこもれりこ君をおまへに
ふせてよろつにうらみかつはかたらひ給あこはらうたけれとつらきゆかりにこ
そえおもひはつましけれとまめやかにのたまふをいとわひしと思たりしはしう
ちやすみ給へとねられ給はす御すゝりいそきめしてさしはへたる御ふみにはあ
らてたゝうかみにてならひのやうにかきすさひたまふ

うつせみのみをかへてける木のもとになを人からのなつかしきかなとかき
たまへるをふところにひき入てもたりかの人もいかにおもふらんといとをしけ
れとかた　くおもほしかへして御ことつけもなしかのうす衣はこうちきのいと
なつかしき人かにしめるをみちかくならしてみゐたまへりこ君かしこにいきた
れはあねきみまちつけていみしくの給ふあさましかりしにとかうまきらはして
も人のおもひけむことさり所なきにいとなむわりなきいとかう心おさなきをか
つはいかにおもほすらんとてはつかしめ給ひたりみきにくるしう思へとかの御
てならひとりいてたりさすかにとりてみ給かのもぬけをいかに伊勢をのあまの
しほなれてやなと思もたゝならすいとよろつにみたれてにしの君も物はつかし
き心ちしてわたり給にけりまたしる人もなきことなれは人しれすうちなかめて
ゐたりこきみのわたりありくにつけてもむねのみふたかれと御せうそこもなし
あさましと思ひうるかたもなくてされたる心にものあはれなるへしつれなき人
もさこそしつむれいとあさはかにもあらぬ御けしきをありしなからのわか身な
らはととり返すものならねとしのひかたけれはこの御たゝうかみのかたつかた
に

うつせみのはにをく露の木かくれてしのひ　くにぬるゝそてかな